

## 第5章

### 職業観における余暇志向と長浜市居住希望の関係

データサイエンス学部 坂口暁海

#### 1. 問題の所在

近年、地方の若者のUターン問題は、地域の活性化や持続的な発展にとって重要な課題である。都市部への若者の流出が進むことで、地方都市は将来的な人材不足や地域経済の低迷といった厳しい問題に直面している。このような状況において、地方都市は若者の定住を促進するための施策や魅力づくりに取り組む必要があるだろう。

また、この状況は、単なる若者の地域移動にとどまらず、青年層の職業選択においても大きな影響を与えている。青年を対象としたいくつかの世論調査からは、職業意識における変化が浮かび上がっている（菰田 2007）。中でも大きな変化は、仕事を第一に考える傾向が強かった職業志向から、余暇や仲間とのつながりを大切にする余暇志向・仲間志向への変化である（菰田 2007）。仕事そのものに対して一定の距離を置き、自分自身の中にある内在的な価値によって職業選択を行っていると考えられる。また、内閣府の調査（2014）によれば、20代の若者は今後の生活において、住生活よりもレジャー・余暇活動を重視している傾向が顕著であり、4割以上の若者がそのような価値観を抱いているという結果が示されている。このような職業意識の変化や価値観の転換は、単なる個人の嗜好や志向だけでなく、地域社会においても深刻な影響を及ぼしているはずだ。

以上を踏まえ、本研究では、若者の地方居住希望と職業観における余暇志向に焦点を当て、若者の地域定着を促すための手がかりを探ることを目的とする。続く第2節では先行研究を整理し、本校で分析する仮説を構築する。第3節では使用するデータと変数を説明し、第4節分析結果を報告する。最後に第5節で、分析結果から考察を行う。

#### 2. 先行研究と仮説の検討

##### 2-1. 先行研究

西(2008)は、日本人の余暇活動や余暇に対する意識について調査した。余暇活動については、テレビやビデオ、DVDを見ることのような多くの人に日常的に行われているものや、インターネットなどのように年代によって活動頻度に差があるものがみられたと報告した。また、国民の2人に1人は自分の余暇の過ごし方に満足しており、自分の好きなことができる時間のゆとりがあると考えていることが明らかになった。仕事か余暇かのバランスについては、仕事よりも余暇を優先する余暇志向と、仕事と余暇の両立派が3割程度に分かれ、仕事志向も2割程度を占めた。そして、男女とも16～29歳の若い年代で、仕事よりも余暇を優先する傾向がみられた。さらに、週の労働時間が60時間を超える長時間労働者は、余暇の満足度や幸福度が総じて低く、仕事とそれ以外の目的に使う時間のバランスは決して取れているとはいえない状況であるとした。

若者の余暇活動について、地域定着の観点から分析した森本ら（2017）は、余暇活動を、「仕事飲酒」、「私的飲酒」、「娯楽活動」、「文化活動」に分類し、若者（25歳から34歳）は壮年（35歳から49歳）と比較してすべての余暇活動について頻度が高く、特に娯楽活動や文化活動の日数や時間を今よりも増やしたい人の割合が高いことを明らかにした。また、東京23区居住者と比較して北関東3県等の居住者の方が、余暇活動施設数に対する満足度が低く、私的飲酒、娯楽・文化活動施設数に対する満足度が、将来の居住意向に影響を与えている傾向があると明らかにした。

森本らの研究より、余暇志向が居住移行に影響を与えているということが分かった。しかし今回の分析では、余暇志向の中でも限定的な職業観における余暇志向について調査することが目的であり、そのような調査を行っている論文は無かった。

## 2-2. 仮説と分析方法

以上を踏まえて、本稿では「職業観において余暇志向が強い人ほど長浜市の居住希望が高い」という仮説を検討する。これは、先行研究より、東京23区居住者と北関東3県等の居住者において、余暇志向が居住意向に影響を与えていることが分かったが、長浜市ではどのようになっているか、また、ただの余暇志向ではなく、職業観における余暇志向と居住意向ではどうなっているかを検証するための仮説である。

仮説を検討するにあたり、まず職業観における余暇志向と長浜市の居住希望との2変数の関連をクロス表によって検討する。その後、他の変数の影響を統制するため、統制変数を加えた重回帰分析によって、再度職業観における余暇志向と長浜市の居住希望との関連を見ていく。

## 3. 使用するデータと変数

### 3-1. 使用するデータ

使用するデータには、「長浜市中高生調査（こども若者実態調査）」のアンケートデータを使う。調査の概要を表1に示す。

表1. 調査概要

調査名	長浜市中高生調査（こども若者実態調査）
調査対象	長浜市内の公立高校
調査時期	令和5年7月20日～9月11日
調査方法	インターネット調査（生徒に調査依頼および回答先のQRコード付き案内チラシを配付）
抽出方法	全数調査
サンプルサイズ	900

※調査の詳細は第1章に記載

### 3-2. 使用する変数

従属変数には、将来の長浜市の居住希望を使用する。今回用いたデータの調査では、「あ

なたは将来、長浜市に住みたいと思いますか。」という項目を5段階（1住みたい～5住みたくない）で尋ねており、この項目を将来の長浜市の居住希望として使用する。また、今回の分析では、この値が大きくなるほど、長浜市に住みたいというようにしたいため、値を逆転して使用する。

独立変数には、「職業観における余暇志向」を使用する。今回用いたデータの調査では、将来の職業を考えるうえで重視することについて、8項目4段階（1とてもあてはまる～4まったくあてはまらない）で尋ねており、「趣味や交流の時間を確保できる」という項目を余暇志向についての変数とする。統制変数には、学年、男性ダミー、高校偏差値、長浜市への親しみ、親の勧め関連を使用した。親の勧め関連の変数とは、親が自分に勧めてくることについて、3段階（1良く勧められる～3まったく勧められない）で表した変数である。また、「職業観における余暇志向」、「長浜市への親しみ」、「親の勧め関連」については、従属変数と同じように値を逆転して使用する。

表2に使用する変数の記述統計量を示す。従属変数である居住希望については、「どちらともいえない」が多いが、そのほかはバランスよく分布している。余暇志向についての変数である「趣味や交流の時間を確保できる」については、とてもあてはまるが約6割と、偏りがあることが確認できる。

表 2. 使用する変数の記述統計量

変数	n=630		n=630	
	Mean(%)	SD	Mean(%)	SD
<b>従属変数</b>			<b>統制変数</b>	
居住希望			学年	
住みたい	13.8		1年	52.4
どちらかといえば住みたい	25.6		2年	33.3
どちらともいえない	43.5		3年	14.3
どちらかといえば住みたくない	11.3		性別	
住みたくない	6.0		男性	46.2
			女性	53.8
<b>独立変数</b>			高校偏差値	49.7 10.2
職業観			長浜への親しみ	
有名な会社であること			ある	35.8
とてもあてはまる	10.8		どちらかといえばある	39.3
まああてはまる	49.0		どちらともいえない	17.9
あまりあてはまらない	31.9		どちらかといえばあるない	3.6
まったくあてはまらない	8.3		ない	3.3
高収入であること			親の勧め	
とてもあてはまる	40.6		将来、長浜市で暮らすこと	
まああてはまる	51.3		良く勧められる	8.5
あまりあてはまらない	6.5		たまに勧められる	25.6
まったくあてはまらない	1.6		まったく勧められない	65.9
安定していること			将来、長浜市で暮らすこと長浜市以外の地域で暮らすこと	
とてもあてはまる	62.2		良く勧められる	6.5
まああてはまる	35.2		たまに勧められる	28.8
あまりあてはまらない	2.1		まったく勧められない	64.7
まったくあてはまらない	0.6		将来、大学に通うこと	
自分の夢を叶えられる			良く勧められる	37.1
とてもあてはまる	47.5		たまに勧められる	28.4
まああてはまる	41.0		まったく勧められない	34.6
あまりあてはまらない	9.3		将来、都会の有名な大学に通うこと	
まったくあてはまらない	2.2		良く勧められる	6.3
技術や知識を活かせること			たまに勧められる	21.7
とてもあてはまる	42.5		まったく勧められない	71.9
まああてはまる	48.6			
あまりあてはまらない	7.0			
まったくあてはまらない	1.8			
趣味や交流の時間を確保できること				
とてもあてはまる	62.5			
まああてはまる	33.0			
あまりあてはまらない	3.9			
まったくあてはまらない	0.6			
社会に貢献すること				
とてもあてはまる	31.3			
まああてはまる	52.8			
あまりあてはまらない	13.4			
まったくあてはまらない	2.5			
長浜市に貢献すること				
とてもあてはまる	12.0			
まああてはまる	42.7			
あまりあてはまらない	32.5			
まったくあてはまらない	12.7			

## 4. 分析

### 4-1. 基礎的な分析

まず基礎的な分析として、将来の長浜市の居住希望と余暇志向についてクロス集計したものを図1に示す。クロス集計の結果、居住希望と余暇志向の間に関連があるとは言えなかった。

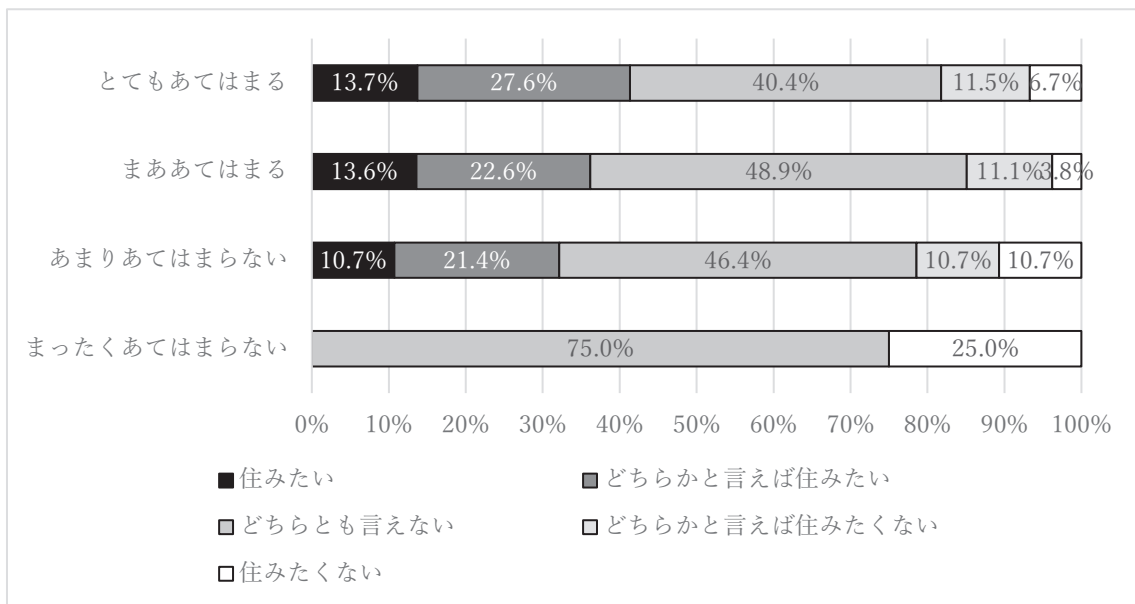


図 1. 将来の長浜市の居住希望と余暇志向のクロス集計

今回の基礎的な分析では、居住希望と余暇志向の関連は見られなかったが、居住希望に対する余暇志向の効果が別の変数と関連している可能性がある。よって、重回帰分析によって別の変数を統制したうえで、居住希望と余暇志向の関連を確認する。また、独立変数において、余暇志向と他の職業観を比較するために、余暇志向以外の変数も加えて分析する。

#### 4-2. 重回帰分析

表 3 では、独立変数として職業観に関する変数をすべて使用した分析の結果である。表によると、この分析でも居住希望と余暇志向の関連は見られなかった。一方関連がみられた変数は、「職業：社会に貢献する」「職業：長浜市に貢献する」「長浜市への親しみ」「親の勧め：都会の有名大学進学」である。その中でも、「職業：長浜市に貢献する」と「長浜市への親しみ」は居住希望に対してプラスの効果があるということが分かる。

以上の結果により、将来の長浜市の居住希望と余暇志向の関連は見られないということが明らかになり、仮説通りの結果が得られなかった。この結果を踏まえて、考察を行う。

表3. 重回帰分析の結果（他の職業関連の変数を加えて）

変数	非標準化係数		
	B	標準誤差	有意確率
切片	1.761	0.338	***
職業：有名な会社である	0.016	0.049	
職業：高収入である	-0.052	0.061	
職業：安定している	0.023	0.068	
職業：自分の夢を叶えられる	-0.039	0.056	
職業：技術や知識を活かせる	-0.001	0.060	
職業：趣味や交流の時間を確保でき	-0.054	0.063	
職業：社会に貢献する	-0.190	0.057	***
職業：長浜市に貢献する	0.449	0.048	***
学年	0.032	0.047	
男性ダミー	0.073	0.068	
高校偏差値	0.004	0.004	
長浜市への親しみ	0.444	0.043	***
親の勧め：将来の長浜市居住	0.086	0.056	
親の勧め：将来の長浜市外居住	0.011	0.059	
親の勧め：大学進学	-0.065	0.049	
親の勧め：都会の有名大学進学	-0.212	0.065	***
n		630	
R <sup>2</sup>		0.332	
調整済みR <sup>2</sup>		0.315	

Note. + $p < .10$  \* $p < .05$  \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$

## 5. 考察

分析の結果より、将来の長浜市の居住希望と余暇志向は関連があるとは言えないということが分かったため、今回は表3の分析で有意となった変数について考察する。

職業観に関する変数では、社会に貢献することを重視する人ほど、居住希望が低い傾向が見られた。一方で、長浜市に貢献することを重視する人ほど、居住希望が高い結果が出ている。これは、地域社会への貢献や地域への愛着が、将来の居住希望に影響を与えている可能性が考えられる。また、社会への貢献において都市部での活動がより重要視されている可能性も考えられる。長浜市への親しみの変数に関しては、地域への親しみが高い人ほど、将来の居住希望が高いという結果が得られた。このことから、地域への愛着やコミュニティの結びつきが、居留意欲にポジティブな影響を与えている可能性があるだろう。親が都会の有名大学進学を勧めるかどうかという変数に関しては、親に都会の有名大学進学を勧められる人ほど、居住希望が低い傾向が見られた。このことから、親の進学に関する期待や影響が、将来の居住地選択に影響を与えている可能性があるだろう。また、都会の有名大学進学が重視される環境では、都市部での生活やキャリアがより魅力的に感じら

れ、その結果として地方への居住希望が低くなると考えられる。

以上のことから、地域社会への愛着やコミュニティの重要性、職業観や進学に関する家庭環境が、将来の居住希望に影響を与えていることが示唆される。

課題として、この分析では、地域への親しみや職業観、進学に関する要因が将来の居住希望との関連性を示しているが、他にも影響を与えるかもしれない重要な変数が存在する可能性があるため、検討が必要である。

また、将来のことを一番考える時期であろう高校三年生のデータの数が少なかったことも課題の一つである。高校三年生は進学や進路の選択を含む将来の計画を真剣に考える時期であるため、その意向を把握することは重要だ。しかし、データ数が限られていると、結果の信頼性や一般性に疑念を抱く余地が生まれる。もっと広範かつ多様な高校三年生のデータを取得することが、より信頼性のある結論を導くために必要である。

## 6. 結び

本稿では、若者の地方居住希望と職業観における余暇志向に焦点を当て、若者の地域定着を促すための手がかりを探ることを目的とした調査を行った。具体的には、長浜市に住む高校生を対象に、長浜市の居住希望と職業観における余暇志向の関連について調査したが、この二つに関連があるとは言えないという結果となった。また、長浜市に親しみがある人と職業観において長浜市に貢献したい人ほど、将来の長浜市居住希望が高く、親に都会の有名大学進学を勧められる人と職業観において社会に貢献することを重視している人ほど、将来の長浜市居住希望が低いという結果も得ることができた。これらの結果からは地域の魅力やコミュニティへの愛着、将来の職業観、地域社会への貢献意識、そして親の影響が、長浜市の高校生の将来の居住希望に影響を与えていることが考えられる。

今回行った分析結果が、将来の長浜市居住希望向上のための方針策定に役立つことを期待する。

## 参考文献

- 菰田孝行, 2007, 「大学生における職業価値観と職業選択行動との関連」『青年心理学研究』, 19(0) : 92-95.
- 森本瑛士・大森宣暁・菅野健・長田哲平, 2017, 「若者の余暇活動の実態と意識——地方都市への地域定着を視野に入れて」『土木学会論文集 D3』73(5) : 537-547.
- 内閣府大臣官房政府広報室, 2014, 「国民生活に関する世論調査(平成 26 年 6 月調査)」, 内閣府ホームページ, (2024 年 2 月 8 日取得, <https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-life/>) .
- 西久美子, 2008, 「余暇意識からみるワーク・ライフ・バランス——「余暇とスポーツ 2007」調査から」世論調査部, (2024 年 2 月 8 日取得, [https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2008\\_04/080403.pdf](https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2008_04/080403.pdf))